

第3学年 保健体育科 学習指導案

指導者 千葉卓也

1 日時 平成27年7月3日(金) 3校時

2 学級 上田中学校3年1・2組 男子31名 体育館

3 主題 球技「ハンドボール」

4 主題について

ハンドボールは、手頃な大きさのボールを手で扱い、いろいろなパスや思い切ったシュートで攻めたり、マンツーマンディフェンスやゾーンディフェンスなどで守ったりして、勝敗を争うところに楽しさがある。スピード感あふれるパスやダイナミックなシュートなどは、他の競技に見られない醍醐味を味わうことができる。また、集団で作戦を立てて試合に臨む過程や結果に達成感を味わうこともできる。ルールも比較的簡単で、誰もが参加しやすく、技能の段階に応じてプレイすることができる。攻防の切り替えが絶えず続き、かなりの運動量を確保することができるので、運動した充実感を十分に味わえるスポーツとも言える。他の球技に比べて身体接触が多いため、スポーツマンシップがより求められることも特徴である。

事前のアンケート結果では、「体育が好きですか」の問いに対し、「好き」93%、「嫌い」3.5%、「どちらでもない」3.5%であった。また、体育分野で最も好きな種目は「球技」の90%、次いで「水泳」の35%であった。ハンドボールの授業には100%の生徒が、「楽しみ」「どちらかという楽しみ」と回答しており、特に学びたい内容は、「戦術」が59%で最も多く、次いで「シュート」が48%であった。生徒は本単元に対し期待感をもって臨んでおり、技術の向上はもとより、戦術についての関心が高いことが分かった。

本単元では、ミニゲームやハーフコートゲームを毎時間設定することで、戦術とゲームのつながりを意識させることと、ゲームの人数を減らすことにより個人が戦術に関わる頻度を高めることをねらいとし、ゲームの中で技能の習熟も図りたい。また、本時は、生徒たちの前向きに取り組む気持ちを大切に、生徒相互のかかわり合いを生かしながら、自己のチームや相手チームの特徴に合わせたディフェンスのシステムを考えることや、ディフェンスの効果的な突破の仕方についての学習を通して、生徒の思考力を育てていきたい。

5 指導と評価の計画(別紙)

6 本時の達成目標

運動への関心・意欲・態度	
運動についての思考・判断	自己のチームに当てはめながら効果的なディフェンスのシステムを見つけ、説明している。 ・体力の消耗を防ぐために、ゾーンディフェンスで守ろう。 ・マークのズレを防ぐために、マンツーマンで守ろう。 ・〇〇くんをマンツーマンで守り、あとはゾーンにしよう。
運動の技能	
運動についての知識・理解	

7 本時の指導構想

(1) 本時のねらい

本時は評価規準「運動についての思考・判断」の「運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。」を主にねらったものである。

(2) 「論理の意識化を図る学習活動」にかかわって

【考えがいのある課題の設定】

学習課題を「自分のチームにあったディフェンスシステムを見つけよう」と設定する(4. 学習課題を把握する。)

課題解決の基になるのは「マンツーマンディフェンスとゾーンディフェンスを比較する視点」である。これらのシステムは前時までに経験しており、実戦経験を通して感じた長所と欠点を導入の段階で確認する(3. 既習の戦術を確認する。)

この課題では習得した戦術の考え方をもとにして、自己のチームや相手チームの特徴と戦術の特徴とを照らし合わせ、どのような観点でシステムを選択していくことがより効果的であるのかを追求し、失点を減らすことで有利にゲームを進めることをねらっている。その作戦の選択や習熟がゲームの勝敗に直結することから、生徒は意欲的に思考を働かせるものとする。

【「論理の思考型」を用いた言語活動】

特に、論理の思考型の帰納的思考を用い、システムの特徴と自己のチームや相手チームの特徴と照らし合わせながら、システムを選択した根拠や理由を述べさせたい。

自己のチームや相手チームの特徴を考えることで、ディフェンスのシステムを選択する方針が見えてくると思われる(5. システムを選択する。(1)個人で)。具体的には「マークする相手をすぐ見失ってしまうを防ぐために、マンツーマンで守ろう。」といった思考の展開が予想される。

【かかわり合い】

本時では、2度のかかわり合いを設定する。

1度目は、個人で選択したシステムを検討し合うことで、修正を加えながらより効果的なシステムについて合意の形成を図ることをねらいとする(5. システムを選択する。(2)チームで)。

2度目は、決定したシステムに沿って練習をすることで、システムの妥当性を検証し、さらに修正を加えることをねらいとする(6. チーム練習をする。)

【自己評価活動】

自己評価活動を行う(9. 自己評価を行う。)。ディフェンスのシステムを選択する際の視点に従い、自己のチームや相手のチームの特徴に当てはめながら比較し、論理的にシステムを選択できたことについて評価をさせたい。さらに、まとめの「リーグ戦」に向けて、チーム内の課題を確認し合い、チームワークを高めようとする意欲につなげさせたい。

8 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の視点・方法	教材等
導入 12分	1 準備運動をする。 (体操・補強) 2 あいさつをする。 3 既習の戦術を確認する。 4 学習課題を把握する。	1 体操:声を出してチームワークを高める。 補強 ・8の字回し ・クイックリスト ・パス&キャッチ ・スリーズ 3 マンツーマンディフェンスとゾーンディフェンスの比較の視点について確認する。 ①相手へのプレッシャー ②体力の消耗度 ③相手のスピードへの対処 ④ mismatchesの起こりやすさ ⑤マークのずれの起こりやすさ 4 比較のポイントとなる事項を全体で確認する。		1. ボール ゴール 畳 4. 紙板書 テレビ PC
自分のチームにあったディフェンスシステムを見つけよう				
展開 33分	5 システムを選択する。 (1)個人で 【自己決定①】 【帰納的思考】 (2)チームで 【かかわり合い①】 6 チーム練習をする。 3対3+1ハーフコート 3分間(攻撃1+守備1+ 作戦会議1)×3 【かかわり合い②】 7 システムを決定する。 【自己決定②】 8 学習のまとめを行う。	5 ①自己のチームや相手チームの特徴と照らし合わせながら、自己決定させる。 ②考えたオーダーをチームで検討し合意の形成を図る。 6 自己評価1)フリーでシュートを打たれていないか。 自己評価2)失点が減っているか。 を検証し、修正を加える。 7 チームにあったディフェンスの最終合意決定をする。 8 自己や相手のチームの特徴を考えて、ディフェンスのシステムを組むことで、より効果的に守れることに気づかせる。	5 【思考・判断】 自己のチームや相手チームの特徴から、システムを選択している。 〈学習シートの記述〉 A. システムを選択した根拠について、その理由まで説明している。 C. 例示を振り返らせながらヒントを与える。	5. 学習シート 作戦板 6. ビブス
終末 5分	9 自己評価を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 相手チームのエースをマンツーマンで抑えることにより、失点を減らすことができた。自分達のチームや相手チームの特徴にあったシステムを考えることが大切だと分かった。 </div> 10 次時の学習内容を確認する。	10 次時からは、マンツーマンディフェンスやゾーンディフェンスをどう破っていくのかについて考えていくことを伝える。		

3年 保健体育		単元(題材)名 E 球技(ハンドボール)		総時間	12時間扱い
学習指導要領の指導事項				単元の目標	
E 球技(ハンドボール) (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。 (2) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切に、自己の責任を果たそうとする。 (3) 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法等を理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫する。				・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって攻防を展開することができる。 ・フェアな行動を通して相手を尊重し、チーム内での役割を積極的に果たそうとする。 ・ゲームの課題に応じて練習やゲーム中の技能を観察できるようにする。	
運動への関心・意欲・態度		運動についての思考・判断・表現		運動の技能	運動についての知識・理解
関① ハンドボールの学習に自主的に取り組もうとしている。 関② 互いに助け合い教え合おうとしている。 関③ 作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。		思① 提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 思② 仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。		技① 安定したボール操作ができる。 技② 相手をマークしたり、空間をカバーしたりしてゴール前への侵入を防ぐことができる。 技③ 空間を作り出すなどの動きによってゴール前へ侵入し攻撃をすることができる。	知① 戦術の名称や行い方について学習した具体例を挙げている。 知② 運動観察の方法について理解したことを言ったり書き出したりしている。
時	主な学習活動	おおむね満足(B)	十分満足(A)	評価事例	
1 2	運動の特性、学習の進め方を知る。 現在のチームや個人の力を知る。	関① ハンドボールの学習に課題設定をすることができる。 技① 安定したボール操作ができる。	・課題設定が単元を通して見通しのあるものになっている。 ・相手や味方に合わせてボール操作ができる。	5 自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶ場面(思③ 学習シート) ディフェンスのシステムについて、自己のチームに当てはめながら効果的なシステムを見つけ、決定期理由を説明できるかを評価する。	
3 4 ⑤(本時)	マンツーマンディフェンスの特徴 ゾーンディフェンスの特徴 自分のチームに合ったディフェンスを考える。	思① 自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶことができる。 技② 相手をマークしたり、空間をカバーしたりしてゴール前への侵入を防ぐことができる。 知① 戦術の名称や行い方について学習した具体例を挙げることができる。	・作戦や戦術を選び、その理由を論理的に伝えることができる。 ・効果的なマークやカバーができる。 ・戦術の効果やポイントを理解し、説明できる。	■おおむね満足(B) ・体力の消耗を防ぐために、ゾーンディフェンスで守ろう。 ・マークのズレを防ぐために、マンツーマンで守ろう。 ・〇〇くんをマンツーマンで守り、あとはゾーンにしよう。	■十分満足(A) ・自分のチームは体力に不安があるため、体力の消耗を防ぐために、ゾーンで守り、攻撃に体力を残そう。 ・お互いに譲り合って、マークが遅れてしまうので、マークのミスを防ぐために、マンツーマンで守ろう。 ・相手の〇〇くんがゲームを組み立てているので、〇〇くんをマンツーマンで抑え、あとはゾーンにしよう。
6 7 8	マンツーマンディフェンスの破り方 ゾーンディフェンスの破り方 速攻の効果・速攻への対応	関② 互いに助け合い教え合おうとしている。 技③ 空間を作り出す動きで攻撃をすることができる。 知② 練習やゲーム中の技能を観察し、伝えることができる。	・自主的な学習を成立させている。 ・相手に応じて戦術を変えながら対応している。 ・観察した内容を伝えることで、学習課題を明らかにすることができる。	* 自己のチームや相手チームの特徴から、システムを選択している。	
9 10	チーム練習① チーム練習②	関③ チームの話し合いに貢献しようとしている。 思② 仲間に対して、技術的な課題等を指摘することができる。	・話し合いがチームの課題解決につながっている。 ・課題の解決に向けた方法をアドバイスしている。	* システムを選択した根拠について、その理由まで説明している。	
11 12	まとめの競技会で、学習の成果を確かめ合う。	技② 相手をマークしたり、空間をカバーしたりしてゴール前への侵入を防ぐことができる。 技③ 空間を作り出す動きで攻撃をすることができる。	・効果的なマークやカバーができる。 ・相手に応じて戦術を変えながら対応している。	【C: 指導の手だて】 マンツーマンディフェンスとゾーンディフェンスの特徴について、全体で確認した上で、その判断基準を視覚的に例示しておく。迷っている生徒には例示を振り返らせながらヒントを与える。	